

高齢者と人権

1. 高齢社会の現状
2. 高齢者の尊厳の擁護
3. 高齢者と共に生きる社会

高齢者と人権

1. 高齢社会の現状

① 世界に例を見ない「超高齢社会」

2020年9月現在、日本の総人口は1億2,586万人で、前年に比べ29万人減少している一方、65歳以上の高齢者人口は3,617万人と、前年に比べ30万人増加し過去最多となりました。**高齢化率**は28.7%と、4人に1人以上が高齢者となっています。

総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、1950年（昭和25年）以降一貫して上昇が続いており、第二次ベビーブーム期に生まれた世代が65歳以上となる2040年には35.3%と、3人に1人が高齢者になると見込まれています。世界に例を見ない水準の高齢化が進む、「**超高齢社会**」が到来しているのです。

高齢者と人権

2. 高齢者の尊厳の擁護

① 高齢者の尊厳を守るには

ここ数年、高齢者の人権が侵されるような事例が多発しています。高齢者に対する虐待、介護放棄、不当な財産処分、悪徳商法や振り込め詐欺などといった事件が後を絶ちません。

こうした事件をなくし、高齢者の尊厳を守るためには、高齢者がこれまで果たしてきた社会的役割の重要さや、加齢に伴う肉体的、精神的衰え、不安などを正しく理解・認識することが不可欠です。地域全体で高齢者と共に支え合いながら生きるという意識を持っていくことが求められています。

高齢者と人権

2. 高齢者の尊厳の擁護

② 深刻化する高齢者虐待

2019(令和元)年度の厚生労働省の調査によれば、養護者による虐待は、相談・通報件数が、34,057件 虐待判断件数が16,928件で、前年度に比べ増加しています。

養護者による高齢者虐待の種別 (複数回答)

身体的虐待	67.1 %
介護等放棄	19.6 %
心理的虐待	39.4 %
性的虐待	0.3 %
経済的虐待	17.2 %

高齢者と人権

2. 高齢者の尊厳の擁護

③ 認知症高齢者の人権

認知症は、脳内疾患やアルツハイマー病など、脳の器質的な変化により起こる病気です。たとえ認知能力の一部に支障をきたしていたとしても、多くの場合感情などが失われているわけではありません。自尊心を傷つけるような態度を取られれば当然、悲しい気持ちになったり、怒りを感じたりします。

認知症が原因で、第三者には理解できない行動をとることもありますが、介護にあたる家族や要介護施設の職員はもちろん、地域ぐるみで認知症について正しく理解し、適切な対応をしていくことが認知症の高齢者の**尊厳**を守ることにつながります。

高齢者と人権

3. 高齢者と共に生きる社会

① 職場で活躍する

高齢者が安心して自立した生活を確保し、生きがいを持って社会の一員として生活するには、高齢者の雇用の維持・発展が不可欠です。そのため国では、希望者全員が65歳まで働けるよう、定年引き上げ、継続雇用制度の導入などを促進しています。

② 社会参加で生きがいを感じる

「役に立たない」などと高齢者を社会の中心から締め出すような社会は、人々が安心して暮らせる社会ではありません。高齢者が生きがいを持って社会参加していくことがとても大切です。

③ 優しい街づくりを進めよう！

公共施設や道路などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの考え方で作られた製品や施設など、優しさにあふれた街づくりがこれからの課題です。